



旭川マイホームセンター見学会

石田奈津子 (旭川支部)

10月13日(火) 今期初の見学会を開催しました。

見学先は、昨年、旭川に新しくオープンした北海道マイホームセンター「旭川北彩都会場」です。

旭川駅周辺という立地条件にありながら、日常業務に追われて個人では足を運ぶ機会がなかなか難しく、委員会の中でも、毎回、士会として見学したいねという声があがっておりました。

全12棟の最新モデルハウスのうち残念ながら、1社は火曜日が定休日ということで見学できませんでしたが、11棟じっくりと、勉強させて頂きました。

平日の午後からの見学でしたが、みなさん普段なかなか展示場の見学に行けないということもあり、たくさんの方に参加して頂きました。

新型コロナウイルスの影響もあり、施設側から細かな指導を頂き、3密をさけるため、3～4人のグループに分けて、見学する棟が重ならないように回り方にも配慮をしました。又、マスクの着用と見学する際には玄関先で手指消毒を徹底して入室させて頂きました。

この日は10月といっても外は寒かったのですが、モデルハウスの中はどこもほかほかと温かく、担当の方は、私たちの質問にも親切に説明して下さい、温かい気持ちにさせて頂きました。

感染対策の方も各モデルハウス

の入り口に消毒液がきちんと設置されており、見学者が退出されたあとは、換気等も行っているそうです。

今後の参考にとお願いしたところ、何社か撮影にもご協力いただき写真に記録させて頂くこともできました。最新の設備とデザインにインスピレーションを刺激され、仕事の英気を養えた良い見学会でした。



(素敵なガレージでしょ！)

〈委員長のひとりごと〉

コロナ×コロナで、心もつかれてきていたころ、施設関係者様には、団体見学を受け付けて頂き、感謝申し上げます。

衣食住の「住」の基本となる「マイホーム」の在り方を、日頃より提案されている各社のアイデアや気配りに直接触れることができ、参加した会員等も、自宅に帰ってきたような気持ちにさせて頂いたことと思います。

2021年も、元気に活動しましょう。

コロナ禍に思う

立花智亜喜 (網走支部)

この原稿を書いている2020年12月現在、テレビやネットでは今年1年を振り返る特集で溢れています。といっても2020年の漢字は「密」、結局はコロナに支配された1年となってしまいました。

北海道建築士会でも、網走大会が延期となり、各委員会や支部活動は日々変わる制約の中で、様々な工夫を凝らした活動等が行われていました。しかし、網走支部ではどんなに工夫を凝らそうと考へても、市民を対象とした行事はリスクが高く実現に至りませんでした。

女性委員会では、7月に会議室とzoomを併用した会議、11月にzoomによる会議が開催されました。慣れない環境での会議でしたが「新たな日常」を実感する機会にもなり、2021年からの公私のあり方を改めて考えることができました。

観光地・網走市では、毎年2月に開催される冬の1大イベント「あばしりオホーツク流氷まつり」が2021年は中止となりました。網走市民や観光客で賑わう歴史あるお祭りが、パンデミックで中止となる事は、今まで誰も考えたことのない事態です。

当たり前のことが当たり前でなくなる今、建築士の私達に何ができるのか、奇しくも網走大会のテーマ「Lat.44° N. ともに語ろう北海道の未来」、サブテーマ「建築士は何ができるだろうか？」に繋がる時代を迎えることになりました。

2021年は、コロナに打ち勝ち、何かと不便が多い「新たな日常」をユニバーサルデザイン化できるといいなと思っています。